

西原さつきさん講演会

「自分らしく生きていく」@多文化共生論



教壇に立つ西原さつきさん

多文化共生論（国際日本学部・学部教養科目）は、民族や人種差別といった問題だけでなく、ジェンダーや障害、ホスピタリティなどをとりあげる回もあり、多様な観点から人々が共に生きていくことについて考える授業です。ジェンダーに関する回では、同性婚や女性の社会参画について考えましたが、それに加えて、トランスジェンダーに注目しました。

LGBTとして、セクシャル・マイノリティとして同性愛等と一つにまとめられがちなたランスジェンダーですが、LGB（レズビアン・ゲイ・バイセク

シャル）までが性的指向を指すのに対して、T（トランスジェンダー）は性自認であり、別個に考える部分が多いことを強調して、生活するうえでさまざまなぶつかる障壁（バリアー）を紹介してきました。

しかし、やはりこうしたことは当事者に語ってもらいたい、そして当事者といっても、セクシャルリティについてだけでなく、現在関心があることや大事にしていることなど、多様な姿を見てもらいたい、そのような想いから、歌手、ボーカリスト、ボイストレーナー、女優、モデル、タレント、ナレーターなど多彩

国際日本学部 国際文化交流学科 熊谷謙介

な活動を行っている西原さつきさんを、多文化共生論の先生としてお招きしました。西原さん自身も、「色々な世界を知ってもらおう」という目標を講演の冒頭で示し、「正解があるものではない」ことを強調してくれたので、和やかな雰囲気での講演はスタートしました。まじめな話も大切だけど話題に挙げるにはハードルが高い…、「もつと身近に、もつとポップに！」という考え方を示してくれて、大学教員としてはツボを突かれました。

西原さつきさんには2024年度、多文化共生ゼミでゲストとして来てもらったのですが、そのときは25人くらいの学生を相手にしたやりとりでした。一方、今回は履修者数としては250人を超える講義なので、事前に西原さんへの質問を募集し、そのなかからピックアップして答える、Q&A方式を採用しました。しかし担当教員である私の予想を超えて、非常に多くの質問が寄せられ、まず学生たちの関心の高さに驚きました。

そして何より驚いたのが、西原さつきさんがそのほとんどをとりまとめて、丁寧に答えていったことでした。準備も長くかかったでしょうし、答えにくいようなプライベートな質問、またトイレ使用の問題などSNSなどを中心にしたいわゆる「炎上」案件についても、自分のスタンスを伝えつつ、バランスのとれた回答をしてくれたことに、感銘を受けました。

また、社会制度や政治に関する質問、たとえば同性婚の法制化の動きについては、賛成であることを前提にしつつ、どうですかと訊かれると「隣の学校の話のように聞こえるところもある」と答えていました。トランスジェンダーと同性愛等の性的指向の問題は、似ているように見えて異なる面が大きいということを伝える、きわめて分かりやすい表現であるように思います。どうしてもジェンダー論というアプローチは、各人の生き方を社会問題に還元して考えてしまいがちですが、まずは一人ひとりを見ていくこと、そして対話していくことが大事であることを痛感しました。

さらに、学生どうしのグループワークの時間も多く用意していただき、最初は「ニッチだけど好きなものを共有してみよう！」というアイスブレイクから始まり、「言われてモヤモヤした一言」「もし友だちに相談されたらどうする？」など、話しやすいトピックを挙げながら、学生たちががいに交流できる場所を作っていました。とくに最後の問いについては、西原さんとしての「模範解答」があり、ここでは紹介しませんが、学生も私も大きく納得するものでした。

講演終了後、とくに今回は授業内の講演なので、それで解散となるのが通例ですが、その後でみなとみらいキャンパス1Fのカフェで親睦会が行われました。担当教員である私は出席できなかったのですが、10人を超える学生が集まったというのも驚きで、おしゃべりに花を咲かせたと聞きました。講演だけでなく、交流の場を学生たちが主体的に作ってくれたのは、教員冥利に尽きることでした。

最後に、今回の講演を聞いた感想を一部取り上げて終わりにしたいと思います。西原さつきさんの講演

が、多くの学生に世界が色とりどりであることを伝え、一人ひとりの生き方を肯定して、勇気を与えるものであったらと、願っています。

* * *

・トランスジェンダーに関する知識だけでなく、実際に経験されたエピソードや想いを聞かせていただけたことで、より深く「ありのままの自分らしく生きること」の大切さを感じました。ひとつひとつの言葉に優しさや力強さがあった、とても心に響きました。

・私たちは、相手の性別の話題になると、ついその人と距離を置いてしまったり、シビアな問題と認識して、触れてはいけないことのように感じてしまいましたが、実際はそのようなことはないのだと気づきました。たとえ心と見た目の性別が違っていても、同じ心を持った人間であることには変わりないですし、触れてはいけないことでもないと思います。そういった認識を変えていくためにも、今回のように、トランスジェンダーの方から直接お話を聞いたり、交流したりする機会というのは今後の社会においてとても重要だと思うので、これからも広い面でそういうことを行い、多文化共生社会に向けて、だれもが生きやすい社会を目指したいと思います。

・自身の体験をもとに語られた言葉の一つひとつが、LGBTQ当事者としてのリアルな声であり、深い共感と学びをもたらしてくれました。外からは何も問題がないように見えても、心の中では自分の性別

やアイデンティティに葛藤し、社会からの理解や承認を求めている人がたくさんいるという現実、改めて気づかされました。LGBTQという言葉は聞くのと、どこか自分とは遠いもののように感じていた部分もありましたが、西原さんのお話を聞いて、「違いがあること」「自分が悪いのではなく、「違いを知ろう」としないこと」が問題なのだと感じました。

・西原さんが自分の前髪を固める時が好きと仰っていて、その考えにとっても共感しました。私も前髪が上手いといった時やアイコンが綺麗に引けた時にテンションが上がるので、その感覚が分かり合えるのが嬉しかったです。

・僕は力がないし男らしいかと言われるら全くなくて、「男なんだからこれくらいしなよ！」とか「もちなよ！」と言われたことがあって、それはなんだか違和感しなくてずっと色んな人に言ってきましたが理解されないこともありました。それぞれ思うことは違うし、モヤモヤする観点も違うので、尊重するべきだと思いました。

・これまで私は、西原さんのようにジェンダーに関する活動をしている方々は、ある意味自分の中で区切りがついていて、ブレない自分の芯を持っていたり、ジェンダーという個性に関しての悩みも自分の中で解決したりしているものだと思っていました。しかし、実際にお話を聞いてみると自分が何かわからなくなる時があったり、お手洗いや気を遣って外ではあまり行かないようにしていたりと、そのような活動をjして前向きに見えるような人でもやはり悩むも

のなのだと初めて知りました。

• youtubeやSNSも拝見して、さつきさんが自分らしく楽しく自由に活動している姿を見て私も自分の好きなように自分らしく生きようと、勇気と希望をもらいました。さつきさんの授業は気さくに明るく話してくださいりリラックスして聞くことが出来て、私の中で大学で一番楽しい授業であったなと感じます。

• トーク会に参加した際に、人数が多く、話す人が偏ってしまつた時に西原さんが話を振ってくださいのおかげで自分の意見を言うことが出来ました。今まであまり真剣に自分の家族のことについて話を聞いてもらったことがなく、いつも笑い話として話していたので、西原さんが目を見て真摯に話を聞いてくださって、とても心が軽くなりました。ありがとうございます！

• 自分らしく生きることがまだ難しいとされている社会の中で、勇気をもって声を上げ、行動し続ける姿には大きな力を感じます。「性の多様性」という言葉がまだ浸透していない時期から、自らの経験をもとに、人と人との違いに橋をかけようとする活動は、まさに希望そのものだと思います。これからの時代を生きる私たちにとって、西原さんのように「自分であることをあきらめない姿勢」は、強く、そして優しい光です。

* * *

今回の記事の一部は、神奈川大学国際日本学部HPのnoteに掲載されたものです。転載を認めていただいた国際日本学部にお礼申し上げます。

https://note.com/kanagawa_ccj/n/ndf203970ef00

また、学部HPの方では、西原さつきさんの講演会だけでなく、神奈川大学訪問の様子がよくわかる動画も見ることができるので、こちらもごらんください。

<https://www.youtube.com/watch?v=SOIz0PAlhA>




日時：2025年5月29日（木）13:30～15:10
 会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス400号館
 主催：神奈川大学人文学会
 国際日本学部・多文化共生課の授業内の実演ですが、一般に学生向けです。参加ご希望の方は下記のリンクまたはQRコードで5月27日（水）までご連絡ください。
<https://forms.office.com/74cAd8bb6409>
 問い合わせ先：板谷謙行（神奈川大学）t0622qa@kanagawa-u.ac.jp

西原さつきさん

- 住んでいた経験を次世代に伝えている。
- トランスジェンダーの交遊を進め、レッスンスクール「乙女塾」と、音楽制作の場「スタンスさつきぽん」を創設。自身は自費で作詞と作曲を手がけたオリジナル楽曲を録音中。その他にも、テレビドラマや映画の監修、化粧品や食品メーカーと協業で商品開発などへの取り組みや、学校現場や企業での講演など多岐に渡って活動。
- シングル：「30年後のラブソング」「アイスクリームハニー」（MV）、「あいの手ほう」（作詞作曲）
- 主な作品：NHKドラマ「女子的生活」・映画「ミッドナイトスワン」・テレビ朝日系列「六本木クラス」（出演・脚本・監修）

西原さつきさん講演会「自分らしく生きていく」

プラスアイ編集スタッフ募集中！

人文学会学生部会発行の「PLUSi」の企画・編集に携わりませんか？
 月に2回ミーティングを開催しています（主にみなとみらいキャンパス）。
 詳しくは <http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/intro/index.html> まで
 また秋には「学生文化奨励賞」も開催しますので、奮ってご応募ください。



PLUSi Alius VOL.4
 編集・発行
 制作協力

2025年9月30日発行
 神奈川大学 人文学会学生部会 PLUSi 編集部
 富士オフセット株式会社